

平成 21 年 7 月 3 日

各 位

会社名 中央化学株式会社  
代表者名 代表取締役社長 渡辺 信  
(JASDAQ・コード7895)  
問合せ先 取締役専務執行役員管理本部長 永田 修  
役職・氏名  
電 話 048-540-2624

## 特別損失の発生・繰延税金資産の取崩し並びに平成 21 年 12 月期第 2 四半期累計期間 及び通期(連結・個別)の業績予想の修正に関するお知らせ

当社の平成 21 年 12 月期決算において、下記の通り特別損失の発生及び繰延税金資産の取崩しが見込まれますので、その概要をお知らせするとともに、平成 21 年 2 月 16 日に公表致しました平成 21 年 12 月期第 2 四半期累計期間(平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)の業績予想(連結・個別)と、平成 21 年 12 月期(平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日)の業績予想(連結・個別)を下記の通り修正いたします。

### 記

#### 1. 特別損失の発生およびその内容

##### 1) 海外事業等再編費用(中国における事業採算性重視の徹底)

成長が見込まれる中国事業において、その展開のなかで採算性を重視し不採算取引については是正・縮小を推進して参ります。これらの過程で現在保有する棚卸資産の劣化・廃棄等による処分や売掛債権等の回収不能が発生すると予想され、これらについて連結財務諸表上約 10 億円の特別損失(損失引当)の発生が見込まれます。

##### 2) 債務保証損失引当金繰入

平成 17 年 3 月に破産清算完了し消滅いたしました千代田国際興業㈱の銀行借入債務について、当社は他の引受者とともに重疊的債務引受を行ない、その弁済負担については当該他の重疊的債務引受者が弁済計画に基づき負担してまいりましたが、今般、弁済を行なってきた当該他の重疊的債務引受者の負担能力等を勘案した結果、当社の負担可能性が高まったため、連結及び個別財務諸表上約 6 億円の特別損失(債務保証損失引当金繰入)の発生が見込まれます。

##### 3) 貸倒引当金繰入(本年 5 月 11 日公表済み)

当社グループがおこなってきました不動産開発投資事業に関し、平成 15 年中間期において 75 億円の貸倒引当金を計上し、その後の追加繰入 2 億円を経て当該事業に関連する貸付債権への貸倒引当金は前連結会計期間末現在 77 億円となっております。当該事業に係る貸付債権の回収見込の一部を構成する担保株式について、昨今の株価低迷により回収見込額が減少し、当第 1 四半期末時点で 8 億 5 千万円の引当不足が生じているため、当該債権に係る損失引当の追加として 8 億 5 千万円を特別損失に計上いたしました。

#### 2. 繰延税金資産の取崩し

後述いたします業績予想の通り、経営成績数値の基盤を成す経常段階での損益は、通期で約 16 億円の利益を計上できる見通しであるものの、上記の特別損失の発生・実現により今後の課税所得が減少することで、繰延税金資産の一部についてその実現可能性が見込めないこととなり、これによって繰延税金資産の取崩しが約 10 億円発生すると見込まれます。

### 3. 業績予想の修正

(1)平成21年12月期連結 第2四半期累計期間業績予想の修正 (平成21年1月1日~平成21年6月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成21年2月16日発表)	36,000	400	100	△ 300
今回予想 (B)	35,000	1,000	800	△ 3,100
増減額 (B - A)	△ 1,000	600	700	△ 2,800
増減率 (%)	△ 2.8%	150.0%	700.0%	—
前期(平成20年12月中間期)実績	41,291	△ 1,209	△ 1,270	△ 3,351

(2)平成21年12月期個別 第2四半期累計期間業績予想の修正 (平成21年1月1日~平成21年6月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成21年2月16日発表)	30,500	400	200	△ 100
今回予想 (B)	29,500	1,000	800	△ 3,000
増減額 (B - A)	△ 1,000	600	600	△ 2,900
増減率 (%)	△ 3.3%	150.0%	300.0%	—
前期(平成20年12月中間期)実績	31,932	△ 1,307	△ 1,341	△ 4,370

(3)平成21年12月期連結 通期業績予想の修正 (平成21年1月1日~平成21年12月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成21年2月16日発表)	78,000	1,800	1,000	100
今回予想 (B)	78,000	2,400	1,600	△ 2,700
増減額 (B - A)	0	600	600	△ 2,800
増減率 (%)	0.0%	33.0%	60.0%	—
前期(平成20年12月期)実績	84,827	△ 2,156	△ 3,550	△ 6,862

(4)平成21年12月期個別 通期業績予想の修正 (平成21年1月1日~平成21年12月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成21年2月16日発表)	65,000	1,600	1,000	300
今回予想 (B)	64,000	2,200	1,600	△ 2,400
増減額 (B - A)	△ 1,000	600	600	△ 2,700
増減率 (%)	△ 1.5%	37.5%	60.0%	—
前期(平成20年12月期)実績	68,594	△ 2,088	△ 2,788	△ 9,488

#### (5)修正の理由

##### ①第2四半期累計期間(連結・個別)

第2四半期累計期間における売上高は、個別における売上高が不採算取引の縮小・是正による影響もあって、当初予想数値から若干の未達が予想されるものの、個別において、原材料費削減をはじめとした製品原価の低減や過剰在庫の抑制による製品保管料の低減、その他社内全般にわたる経費削減が順調に進行しており、この結果、営業利益が当初の予想を6億円上回る見通しです。また、経常利益については、営業利益の増加に加え、為替差益約3億円の発生などから当初予想に対して6~7億円上回る見通しです。

連結の当期純利益については、上記の通り経常利益増加の要因はあるものの、「1. 特別損失の発生及びその内容」に記載しました通り、海外事業の再編費用や貸倒引当金繰入などの発生によって約26億円の特別損失の発生が予想され、加えて、当該特別損失の発生による課税所得の減少で、繰延税金資産の取崩が約10億円発生(費用)するため、連結では約31億円、個別では30億円の純損失となる見込みです。

## ②通期(連結・個別)

国内セグメント(個別)での収益が堅調に推移する見通しから、営業利益・経常利益については当初予想に対し6億円程度上回ると見込まれます。なお、当期純利益については、第2四半期累計期間にて発生が見込まれる特別損失の負担が重く、連結では約27億円、個別では24億円の純損失となる見込みです。

尚、本日公表の業務資本提携及び第三者割当増資による平成21年12月期業績への影響は、現在のところ精査中であり、本業績予想には含まれておりません。業績予想に追加的な修正が必要な場合には速やかに開示いたします。

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したもので、実際の業績は、今後、様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上